

まちづくり対策特別委員会 中間報告 (概略)

まちづくり対策特別委員会委員長 寺 岡 公 章

まちづくり対策特別委員会は、「議員個々が地域で捉えた意見を交換し、議会から市長の政策判断に積極的に関与」することで、提案できる議会を目指して設置しています。委員会を通じて議論のテーマを絞り込み、下記3点について協議をしてきました。結果の概略を紹介します。

大竹駅

これまでの議会での陳情採択や委員会での前回中間報告を踏襲し、橋上駅を含めた東西連絡通路の早期実現を前提とすることを確認したのち、駅舎及び周辺整備の意見交換を行っております。例えば「日本で一番バリアフリーが進んだ駅舎を目指す」などのスローガンを設け、当事者がより使いやすい具体的な施設設備を研究していくことを要望します。東口開発の環境変化に合わせた公共交通の利便性向上にも、引き続き取り組むとの意見がでております。また、簡単な手続きができる行政窓口、NPOセンター、観光情報センター、ATMなどの設置で空間の利便性を向上するなど、橋上駅化した後の空いた駅舎の利活用を含めた意見が多数出されました。西口周辺の環境整備は、有料駐車場の適正配置も含め、東西連絡通路の進捗にあわせて、現在の西口広場が持つ課題の根本的解決を図る必要があると集約されています。



小方新駅

建設位置について執行部の意見も交えながら議論し、大竹駅と玖波駅の丁度中間点が小方トンネル出口（岩国側）であることから、トンネル出口が適切であるとしています。

駅舎整備の基本として東西両方向からの利用が前提であり、小方小学校跡地の利活用も考えるべきとの意見も出されております。小方小・中学校跡地については、民間企業への売却が望ましいとされ、早期の利活用ビジョンの作成が執行部・議会に求められるところです。

観 光

各種調査を通じて宮島・岩国への観光客を大竹市内に呼び込むのは困難であるとの結論にたどり着き、近隣住民をターゲットに検討することとしました。

岩国大竹道路の分岐付近であるゆめタウン周辺を利用して、複合型の道の駅を設置できないか検討しました。今後レモンハマチのブランド化を進めていく事もあり、これらの特産品を使ったランチを安く提供できるレストラン、ゴミ焼却炉を熱源とした風呂の併設等の案と共に、晴海臨海公園近くの海岸を釣り公園として整備できないかという案に至っています。

